

ブックランドあしよろⅡ

■ 事業のねらい

読書活動から得られる知識や技能を活用することによって、読書のおもしろさや奥深さを実感し、意欲的な読書活動への推進を図る。また、規則正しい生活リズムの中で読書に親しみ、読書が生活習慣の一部になるきっかけづくりを行う。



- 実施日 平成24年10月6日(土)～7日(日) 1泊2日
- 参加対象 小学3年生～中学3年生 20名
- 参加実績 参加者:23名
小2=2名、小3=4名、小4=9名、
小5=5名、小6=3名
男子=5名、女子18名
運営協力者:大学生5名
- 備考 活動場所:足寄町(道立足寄少年自然の家)
協力:北海道「体験の風をおこそう」運動推進協議会
絵本の会「はらっば」、おはなし「たんぼぼ」
音更町図書館

1 事業実施の背景



全国学力・学習状況調査の結果において、「読書が好きな児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる」という読書習慣と学力の間に関連があることが指摘されている。また、読書活動は、学ぶ意欲や創造力、表現力などを豊かにし、その結果、価値観や人間形成に大きく影響を与える。特に、子どもにとっては、生活リズムの中で読書に親しんでいくことで、読書が日常的な活動の一部となることが重要である。本事業では、じっくりと読書活動ができる時間と場所、豊富な本を準備して読書環境を整え、読書のおもしろさや奥深さを実感することで、意欲的な読書活動への推進を図ることを目的として実施するものである。

2 プログラムデザイン

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
10/6 (土)					10:30	受 開 会	仲 良 く な ら う	昼 食	読 み 聞 か せ	読書スタンプラリー		石窯のピザづくり 焼いたピザを食べよう	夜 ふ り 読 か え 書 り	入 浴	読 自 由 交 書 流	就 寝 準 備	就 寝
10/7 (日)	起 洗 清 床 面 掃	朝 食	清 掃 ・ 準 備	朝 読 書	み ん な で 本 の 紹 介	紹 介 さ れ た 本 を 読 も う	焼 き た て パン を 食 べ よ う	ふ り か え り	閉 会 式	解散14:00							

■ アクティビティについて



■ 意図

- 近隣図書館の協力のもと、幅広い分野の本を準備し、快適な読書環境を整備することで、熟読の楽しさを体験する。
- 自分が読んだ本の紹介、みんなから紹介された本をお互いに読み合うことによって、あらゆるジャンルの本に興味・関心を高める。
- 規則正しい生活リズムの中で読書に親しみ、読書が生活習慣の一部になるきっかけづくりを行う。



■ 留意事項

- 子どもたちが、読書に熱中できるように、読書時間を確保したプログラム構成と屋外を含めた多彩な読書空間の準備に努めた。
- 近隣図書館に依頼し、「平成24年度北海道青少年のための200冊」の推薦図書や図書館司書が推薦する本などから計230冊の図書を借用して、読書環境の整備に努めた。
- 読書推進アドバイザーが所属する絵本の会「はらっば」に依頼し、読み聞かせの活動を取り入れた。

3 活動の様子



■ 当日の様子

初日は、「仲良くなろう」のテーマのもと「子ども体験遊びリンピック」を開催。昼食後、読書推進アドバイザー所属の「絵本の会 はらっば」と「おはなし たんぼぼ」による読み聞かせを行った。参加者全員が場面を想像して喜怒哀楽の表情を浮かべ、熱心に聞き入っていた。その後、さまざまな空間で読書を行う「読書スタンプラリー」を実施。屋外の運動広場を含めた施設内の5ヶ所で、ゆったり読書にふける時間を過ごした。夕食は、石窯を利用したピザづくりに挑戦した。参加者は、顔を粉まみれにしながらか生地をこね、アツアツのピザをみんなで食べた。自分たちが一から作り上げたピザは格別で、ほおばりながら満足そうな表情を浮かべていた。

二日目は、30分の朝読書に続き、お気に入りの本を紹介する「紹介文づくり」に挑戦。2日間で読んだ本を友達に紹介するために、工夫を凝らした紹介文を完成させていた。その後、「みんなから紹介された本を読もう」というテーマのもと、先ほど作った紹介文とその紹介本を並べ、みんなで気になる本を選び、お互いに読み合う活動を行った。

■ 参加者の声

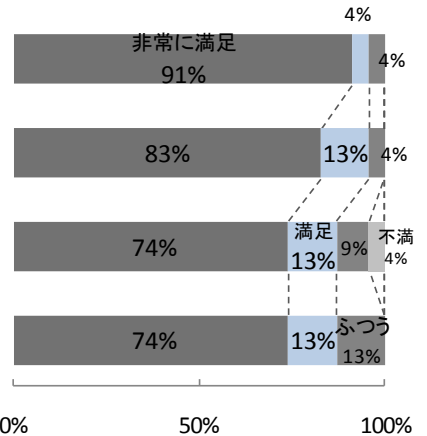
- 読書スタンプラリーをしたり、みんなから紹介された本を読むのは、とても楽しかったです。(小5女子)
- 本をたくさん読んで、わかったことがいっぱいあった。(小4女子)
- 読書スタンプラリーは、他の人と一緒に本を読めるし、達成感もあるので楽しかったです。(小5男子)
- 私は、本を読むのが好きではありません。でも、今回、本をいっぱい読んだので、少し本を読むのが好きになりました。(小6女子)

プログラムの内容に対する満足度

講師・指導者に対する満足度

自分自身の気づきや発見の度合い

周囲へのお勧め度合い



4 事業評価



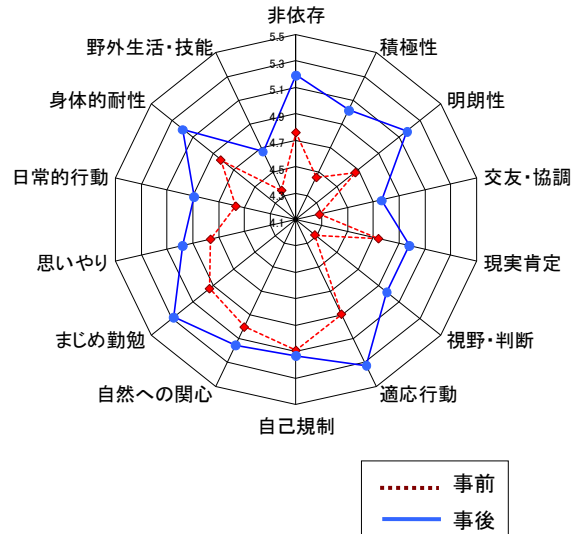
■ 参加者の変容【IKR 調査結果】

「視野・判断」については0.7ポイント、「積極性」0.6ポイント、「明朗性」「交友・協調」で0.5ポイントの上昇が見られた。

■ 結果の分析・考察

「視野・判断」が大きく向上したのは、様々なジャンルの本を読む活動を取り入れたことによるものと推察する。特に、他の参加者から紹介された本を読むことで、自分の興味・関心のある分野の枠を超えることができ、視野が広がったと考察する。

また、グループ活動を多く取り入れたことで、参加者同士の交流が深まり、「交友・協調」が促進され、明るくほごらかな関係を築けたことで「明朗性」が上昇したと考える。さらに、参加者同士の触発が生まれ、前向きに考え、自ら進んで行動できる「積極性」が高まったと考える。



5 まとめ



■ 成果

- 読書推進アドバイザーによる読み聞かせ、施設内5カ所での読書スタンプラリー、本の紹介文づくり及び紹介された本を読み合う活動など、本が身近な存在に感じられるプログラムを取り入れたことで、本との距離を縮め、読書のおもしろさや奥深さをもたらし、意欲的な読書活動を促進した。
- 「遊びリンピック」やクッキング、紹介された本を読み合う活動をとおして、参加者同士のコミュニケーションが促進された。また、様々なジャンルの本に目を向け、普段読まない分野の本に挑戦することで、読書の世界が広がり、思考・判断力が向上した。

■ 課題・今後の方向性

- 「自己規制」と「思いやり」の項目で、変容が小さい傾向になった。他の人と協力しながら活動する際に、自らの役割を明確にさせたり、他者とのかわり方を考えさせたりするなど、参加者への指導法に工夫・改善が必要である。
- クッキングと読書の関連性が薄かったので、クッキングや食文化に関する本の読み聞かせを行うなどの演出や工夫をし、活動内容に関連性を持たせることで、全体的な流れに統一感があるプログラムに仕上げる必要がある。